

報告書送付のご挨拶（抜粋）

報告書を2つ作成しました。

ひとつは堆肥化施設、メタン発酵施設の調査です。それぞれ40施設、メタ85施設についてアンケート調査およびサンプル分析を行い、物質収支、エネルギー消費、コストなどをまとめたものです。廃棄物処理施設の調査にあたっては施設名を匿名とすることが慣行となっていますが、資料としての利用を考えると、

1) 施設を運転する施設間で、情報交換を行う

2) これから採用しようとする自治体が、施設に問い合わせで詳細を尋ねるなどのためには、施設の固有名詞が掲載されていることが望ましいと考えました。そこで施設名公表の可否を改めてお聞きしたところ、全体で予想を上回る60%以上の施設から同意をいただくことができました。施設名は別紙リストとして添付しております。

もうひとつは、家庭系ごみの収集作業に関する調査です。収集はごみ処理費用の中で大きな割合を占めるにもかかわらず、研究は多いとは言えません。しかし分別数、使用する車両、輸送距離、ステーション数、そして分別ごみごとの密度の違いなどのため、作業としての複雑さを増しています。また分別数の増加によって、計画は難しくなり、コストも増加する傾向があります。このたび、札幌市と共同で大規模な調査を実施することができましたので、調査手法の紹介と、主な作業パラメータ測定値の提示、得られた結果をもとに作業時間推定モデルを作成し、例としてステーション収集と戸別収集のシミュレーション比較などを行いました。

平成23年4月18日

北海道大学大学院工学研究院
環境創生工学部門 廃棄物処分工学研究室
教授 松藤敏彦